

従業員向け

児童発達支援・放課後等デイサービス評価表

○ 本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業員の方に、事業所の自己評価していただくものです。

「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業員の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・児童発達支援は個別療育中心の為、十分すぎるスペースが確保されている ・放課後等デイサービスも常に10人未満であるため、スペースとしては余裕がある 適切な人員配置はできている
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		遊ぶところ学習するところ等を習慣化したり、環境を整え配慮している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		施設の清潔さや、落ち着いていて過ごせる環境が整っている
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	療育室と相談室しかない為、個別の部屋を使用したい場合は若干の制限がある
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	・療育内容や業務改善のために、一部の職員とは目標設定と振り返りに参画できている ・短時間のアルバイト職員とはできていないことがある
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○	・保護者向け評価票以外にも個々で指摘のあった内容について、可能な限り改善できるように努めている
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員ミーティング等で、療育内容やお子さんの状態把握をできる事を行っており、その延長で業務改善も行っている
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	外部評価を行っていない為、今後検討する
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人外研修や法人内研修を行っている 実績：こべっこランドでの発達障害セミナー、小児ボバースセミナー（肢体不自由児向け研修）、子どもの心の支援に関わる高度人材育成プログラム（長崎大学主催研修）
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページ上に公表している
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		児発管による家族・本人の面談と、児童指導員等とも相談の上決定し、個別支援計画の立案、同意を得ている
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児発管による家族・本人の面談と、児童指導員等とも相談の上決定し、個別支援計画の立案、同意を得ている
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		○	個別支援計画立案・同意を得た際には、職員に周知し療育の方向を示しているが、時間が経過すると療育方向がぶれていることがある。より密に共有できるように定期的に共有の機会を設けていく
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の行動観察も見逃さないように、夕方のミーティング等で職員間でコミュニケーションを取るよう努めている

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	HP上で支援プログラムとして、公表している。また、個別支援計画立案時やモニタリング時等で支援内容の設定や見直しを行っている
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	児童指導員等の複数人でプログラムの立案をおこなっている
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	職員ミーティングや空き時間に、活動プログラムが固定化しないように、様々な種類を考えている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	個別的関わりを中心としながら、小集団での関わり合いや社会性の発展につながるように、バランスよく働きかけられるように努めている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	集団遊びや個別療育、創作等は役割分担して関わるようにしている
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	毎日できている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	連絡帳以外での記録の部分が不十分である。特に特筆するべき内容は、経過観察等として記入するように努める
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	更新月や発達検査後等でモニタリングや相談を行うようにしている
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	当事業所は「主体性」を育てることに注力しており、自分から考えて行動ができるような支援や関わりを行っている。本人の意思を表出できるように、言語面や行動、心理面を考慮して支援等の関わりを行っている
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	基本的には児童発達支援管理責任者が参加するようにしている
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	保護者さんからの申し出があれば、連携できるように準備はしている
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	送迎業務の経験豊富な職員を選任し、送迎調整を適切に行っている
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	情報共有ができる体制は整えているが、現状実績はなし
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	できていない
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	無し
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	参加できる範囲では参加しているが、時間帯や曜日が固定化されてしまっており、参加できない時もある

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	保護者さんが話しやすいように、LINEやメールで連絡できる形を取っている。他、送迎時に様子を伺ったり気を配っている
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	児童発達支援では、親子同伴での療育スタイルを取っており、家族支援やペアレントトレーニングを積極的に実施している。一方、放課後等デイサービスでは、面談や相談があった際のみ対応している
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	運営規定、支援プログラム、利用者負担は重要事項説明書の内容と重複しているため、重要事項説明書を用いて説明している
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	個別支援計画立案・作成時に聴取している
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	個別支援計画を用いて説明、同意をえている
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	必要に応じて実施している
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○	父母会や保護者会は実施していない。必要に応じて検討していきたい
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情等が合った際には、インシデント・アクシデント報告を実施し、その日のミーティングで報告、対策案を検討するようにしている
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	LINEやX（旧ツイッター）を用いて、専門職による相談会の日や行事予定の連絡を行っている
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人が特定できないように配慮している
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	あまりそのようなケースがないが、そのような方がいれば対応できる
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	そのようなことは行っていない
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	新入職員等が入ったタイミング等で実施している
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	契約時のタイミングで確認している
49		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全計画の作成と新入職員がいる時に研修等を実施している
51		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	子どもの安全確保に関してマニュアル等作成しているが、全ご家庭に周知できていない。今一度、書面にて通知するようする
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	・ヒヤリハット事例は職員間で、出し合うように努めている ・朝、夕のミーティングにて事業所内での報告と周知を行っている

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止研修を積極的に実施している
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束等の適正化のための指針で、そのような場合の対応の仕方を定めている

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ポップ		
○保護者評価実施期間	年 月 日		年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2025年3月17日		2025年3月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援では、それぞれの児童に合わせた完全個別療育を実施し、成長段階に合わせた関りが実施できる。 ・放課後等デイサービスでは、小集団の強みを生かした支援を行い、個々の課題に対して手厚く関わり介入できる配慮をおこなっている。	療法師等の意見を取り入れた療育を実践するため、理学療法士や言語聴覚士の指導や視点を取り入れたプログラム立案、実践を行うようにしている。 常勤の言語聴覚士は在籍していないが、保護者さんからの希望があれば言語聴覚士による相談できるような体制を取り入れたい。	根拠に根差した療育を実践できるように、信頼性の高い研修会等への参加をもっと進めていく。 常にお子さんやご家族さんの困りごとに寄り添い、解決できるように事業所内での事例検討や情報共有をさらに深めていく。
2	療法師が関わっていることで、正確な評価の上で療育を実践できている。	療法師の視点を、事業所内研修を行ったりして、保育士や児童指導員が実践できるようにしている。	現在は、理学療法士や言語聴覚士に相談できる体制はできつつあるが、作業療法士や心理士等に評価してもらったり相談できる体制が整っていない。そのあたりを充実できるように横断的なつながりや取り組みを進めていく。
3	経験豊富な職員がいることで、様々な問題や困りごとに対する対処法や経験則を提供できる。	スタッフが今までの経験や困りごとに対応法を共有できるように持ち合わせている経験を自分のみで消化せず、情報を出し合い共有できるように努めている。	研修会への参加促進や事例検討会の充実、自立支援協議会へ参加することにより、問題点や困りごとに対処するための方法や知識の収集に取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援と放課後等デイサービス（以下、放デイ）を時間を分けて行っている関係で、学校休業日の放デイ開所時間も午後からとなっている。そのため、お預かりも重視しているご家庭には利用しにくい事業所となっている。一方、児童発達支援は主に午前中に行っており、午後にご利用したい思っているご家庭にとっては利用しにくい状況となっている。	個別的・主体的な療育を重視しすぎること、ご利用者様には使いにくい利用形態にはなっていると感じている。	児童発達支援のご利用者は少なくなっており、児童発達支援の利用曜日を集約して、放デイの利用時間の延長等を検討している。
2	スタッフによる能力や知識に差があり、保護者さんの相談に乗れるスタッフが限られている。療法師、保育士、教員資格等の資格保持者は充実しているが、経験や知識を最大限生かされていない。	事業所内の共有や研修（OJT、Off-JT）がまだまだ不足していることや、スタッフ個人による学ぶ姿勢に差があることが要因として考えられる。	スタッフ自身の学ぶ姿勢を会社として適切に評価し、すべてのスタッフがご利用児・者さんに最善の療育や相談体制を提供できるような仕組みづくりの必要性和整備をおこなう。
3			